

## 6月講演&勉強会

# ●幼少時の愛着障害による『不登校リスク』●

～中高生の学校不適應の一因としての発達二次障害～

- ◆主 催：一般社団法人ひきこもり支援相談士認定協議会 沖縄県支部
- ◆日 時：6月1日（土）14～16時（13：30受付）
- ◆対 象：どなたでも参加可能（事前予約不要）
- ◆参加費：500円
- ◆会 場：八洲学園大学国際高等学校（0980-51-7711 本部町備瀬 1249）
- ◆講 師：鈴木 啓之（八洲学園大学教授 博士(医学)）



【職歴】岡崎国立共同研究機構 生理学研究所、ドイツ国ハンブルグ大学 生理学研究所、茨城大学、茨城県教育庁を経て現職。

近年は、凄惨な児童虐待事件の報道が相次いでいます。幼少期の子どもは、親との愛着関係の中で心身や社会性を発達させてゆきます。

母性剥奪や親による児童虐待は、その期間の子どもの発達の歪みや停滞だけでなく、その後の思春期・青年期の発達や社会適應にも負の強い影響を与えつづけることが分かってきました。

そこで、生理心理学な観点から、中高生の学校不適應の一因としての『**愛着障害により形成される二次障害（独特の性格形成、攻撃性、疎外感など）**』について紹介してゆきます。

